

重点目標		具体的取り組み	実現状況の達成度 判断基準	期末 結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
①	組織的なキャリア教育の取組の推進	① 保護者がわが子の高等部卒業後の姿を早い段階から意識できるような情報を提供する。	5段階評価のA評価の割合が A：90%以上 B：70%以上90%未満 C：50%以上70%未満 D：50%未満	39% で D	第10号まで出すことができた。アンケート回収率は18/24で75%。進路だよりの情報が役にたちましたかの質問にAおおいに役だったが39%、Bまあ役にたったが44%、Cどちらともいえないが17%、Dあまり役にたたないが0%、Eまったく役にたたないが0%であった。ABあわせて83%とおおむね良かったが、大方の保護者が周知している情報も多かったのかもしれない。次年度はタイムリーな情報の提供に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価			保護者がわが子の高等部卒業後の姿を早い段階から意識できるような情報をおおむね提供できた。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			次年度はタイムリーな情報の提供ができるように情報収集に努め、保護者のニーズをつかみながら進路だよりを発行していきたい。		
②	特別支援教育の専門性と指導力を高める校内体制の充実及びセンター的機能の充実	① スマートスクールネットに輪島分校として教材等を投稿したり、閲覧したものを授業に取り入れたりなど活用を促す。	小中高等部で活用（投稿・利用）回数のトータル件数が A：10件以上 B：7～9件 C：4～6件 D：3件以下	6件 で C	教材教具の紹介として2件、ICTの授業実践として3件、合計5件投稿（学校指導課まで）することができた。その他オンデマンドなどの視聴を含め活用したのは1件であった。 スマートスクールネットは、いろいろな領域や教科の素材の数が少ないことが一因でもある。少しずつ充実してきたので今後に期待できる。来年度も取り組む。
		② 地域の関係機関や外部専門家と連携し、校内外のニーズに応じた支援を行う。	地域の関係機関や外部専門家を活用した回数が A：30回以上 B：20～29回 C：10～19回 D：10回未満	31回 で A	外部専門家活用は、校内でのOT・PT活用が4回、小学校での大学教授（ST）の活用が3回あった。地域の関係機関と連携し、就学に関する支援会議に24回参加した。今後も同様の連携が可能と予想されるため、次年度以降は通常業務とする。
学校関係者評価委員会の評価			スマートスクールネットに輪島分校として教材等がある程度投稿できた。地域の関係機関との連携や外部専門家の活用が多くなされた。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			スマートスクールネットに輪島分校として教材等をさらに投稿するとともに他の学校が投稿したものなどを活用してさらに専門性を高めていく。		

重点目標		具体的取り組み	実現状況の達成度 判断基準	期末 結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）	
③	地域の 学校と の交流 の促進	①	来年度の門前高校校舎への移転に向けて、門前高校、門前中学校、門前東小学校など近隣の学校と、高・中・小学部がそれぞれ様々な交流を図る。	全ての交流の中で児童生徒同士の関わりが持てた行事の割合が A：80%以上 B：60%以上80%未満 C：40%以上60%未満 D：40%未満	71% で B	小学部は三井小学校と2回、門前東小学校と2回計4回交流を行った。中学部は1回門前中学校と行い、高等部は門前高校と文化祭の参加や調理交流などの2回行った。全学部合計7回交流を行った。うち児童生徒同士の関わりが持てたと学部で評価した行事は5回であった。来年度につながる交流となった。
		学校関係者評価委員会の評価		地域の学校との交流において、児童生徒のかかわりが持てた活動ができつつある。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		門前高校へ移転し、門前地区の学校とは近い距離になるので、質・量ともに充実した交流になるよう取組を進めていく。				
④	学校安全 教育及び環 境教育の推 進	①	児童生徒の健康の保持増進のため、保護者や教職員を対象に研修会を実施し、また児童生徒には保健指導を行い、保健管理や安全管理において充実させる。	保健指導の回数が A：7回以上 B：5～6回 C：3～4回 D：2回以下	11 回 で A	教職員を対象とした嘔吐物処理研修会・AED講習会を1学期に実施。風邪の流行する2学期にはもう一度、書面にて方法を配布した。保健指導では、歯科指導・姿勢指導・風邪予防指導、食育指導などを11回行った。来年度も児童生徒が必要とする課題を見つけ、各学部、定期的に保健指導を実施したい。来年度は校舎が新しくなるため、安全に過ごせるよう環境整備に力を入れていきたい。
		②	能登の豊かな自然環境（里山里海）について、より興味をもてるように、地域資源を活かした授業の実践を全校集会などで報告する。	集会や外部イベントなどで発信した回数が A：10回以上 B：8～9回 C：6～7回 D：5回以下	9回 で B	「のと里山学校プロジェクト」において地域資源を活用した授業を実践してきた。また、「グリーンウェーブ」「ひまわりコンテスト」「産業教育フェア」「販売実習（文化祭、収穫祭、輪島朝市、JAあおぞら、門高文化祭）、そしてビジネス誌月刊「コロンブス」掲載などで外部に活動を発信することができた。次年度は門高生と「能登の里山、里海」をテーマとして活動することも計画したい。
学校関係者評価委員会の評価		多くの保健指導がなされ、保健管理や安全管理が充実してきた。地域資源を活かした授業の実践も多くなされた。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		校舎が移転することに伴い、新しい環境での保健管理や安全管理について環境整備を進めていく。また、地域の学校とも連携して環境教育の取組を進めていく。				

